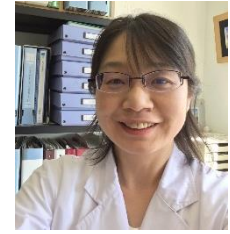


効果のある介護予防に繋げるための 高齢者の生きがい活動・社会活動に関する質的研究 ～ジェンダーを踏まえた検討～

高齢期作業療法・作業科学領域 坂上 真理 准教授



Q. どのような研究をされていますか？

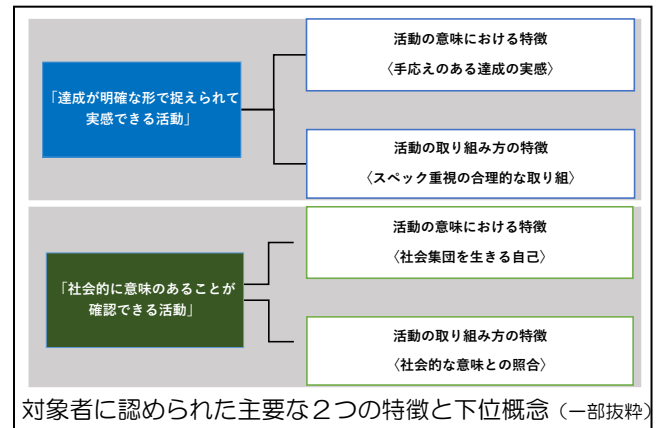
A. 私は、障害のある高齢者や障害を持つリスクのある高齢者を対象に、その方々が日常行っている諸活動と、健康や生活の質（Quality of Life）との関係を明らかにするための研究をしています。日々の活動のあり方が健康状態や生活の質、さらには病気や障害からの回復に大きな影響を与えていると言われています。高齢者の場合は、個人が大切にしている生きがい活動や社会活動を続けることが住み慣れた地域で健康的な生活を送るために重要であり、こうした活動を支援する介護予防事業が各地で展開される様になりました。さらに、より効果のあるプログラムを開発するための研究も推進されています。しかし、これまでの支援や研究では、ジェンダーの視点が十分に考慮されているとは言いきれず、最近では介護予防における男性高齢者の参加率や効果などの課題も指摘されています。この要因として、当事者（男性高齢者）の視点から活動の特徴が十分に理解されていないために、当事者の期待と現行のプログラムとの間に隔たりが生じている可能性が考えられます。



半構造的面接によるデータ収集（イメージ）

Q. これまでどのような研究をされてきましたか？

A. 男性高齢者の視点から、大切にしている生きがい活動や社会活動の特徴を明らかにすることを目的にしました。つまり、活動のどのような特徴に価値を置き、過去や現在の生活とどう関連するかを詳細に理解しました。対象者は同意を得られ、要支援と介護認定された地域在住の男性高齢者でした。研究方法は質的研究で行いました。具体的には、1回 60 分の半構造的面接を個別に行い、大切にしている生きがい活動や社会活動について深く掘り下げて聞き取りました。分析は、面接内容を文字化し、何度も読んで類似する箇所や関連する箇所をまとめ、対象者の語りの意味を掴んでその意味を表現するカテゴリー名を抽出しました。



Q. 将来の展望をお聞かせください。

A. 対象者は「達成が明確な形で捉えられて実感できる」と「社会的に意味のあることが確認できる」という活動の特徴に価値を置いていることがわかりました。これらは女性高齢者を対象とした過去の研究とは異なる特徴であり、違いを踏まえたプログラム開発の必要性が示唆されました。居住地域や介護状態の違いを検討しながら、ジェンダーの視点も加味した介護予防や地域支援プログラムの立案に繋げることを目指しています。

もう少し知りたい!と思った方はこちらへ

- 作業療法学科 高齢期障害作業療法学領域 URL
 ➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ot/ot_koureiki.html
- 大学院保健医療学研究科 理学療法学・作業療法学専攻 作業科学領域 URL
 ➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g_ptot/ahfmcr0000002wxs.html